

旭 居 協 第 2 6 号

令和 4 年 3 月 2 4 日

北海道宅地建物取引業協会

旭川支部 会員各位

旭川市住宅確保要配慮者居住支援協議会

会長 中野 利也

ウクライナからのサハリン残留邦人の受入可能物件に係る情報提供について

早春の候、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、各種報道等で御存じの方も多いと思われていますが、この度ウクライナから旭川市へサハリン残留邦人一時帰国支援事業により帰国された方とその御家族について、今後の各種生活支援が必要な状況となっているところです。

本日、本件に関わり、旭川市福祉保険担当部局より、民間賃貸住宅において受入が可能な物件を探しているとの問合せがあり、緊急かつ市内の多くの不動産事業者の皆様にも問合せをさせていただく必要があったことから、貴協会の皆様のお力をお貸しいただきたく御連絡したところです。

つきましては、別紙の世帯状況及び希望物件等について御理解の上、受入可能な物件がある会員様がおられましたら、時節柄お忙しいところ恐縮ですが、3月30日（水）までに下記問合せ先まで御連絡くださいますようお願いいたします。（具体的な物件情報について御提供いただける場合は、下記メールアドレス宛てに物件情報データ等を御送信いただければ幸いです。）

【お問い合わせ先】

旭川市住宅確保要配慮者居住支援協議会事務局

（旭川市建築部建築総務課） 板東

電話（0166）25-9708 F A X （0166）25-9788

E-mail:sumasapo@city.asahikawa.lg.jp

ウクライナからのサハリン残留邦人の帰国に伴う住居について

1 入居者

降旗 英捷（ふりはた ひでかつ）（78歳）（サハリン残留邦人）
（同行者）

- ・ インナ（孫の妻）（27歳）
- ・ ウラジスラワ（孫（女性））（18歳）
- ・ ソフィア（ひ孫（インナの子）（女性））（2歳）

2 帰国の経緯及び現在の状況

ウクライナに在住していたが、戦火から逃れるためポーランドに避難し、その後、NPO 法人日本サハリン協会のサポートを受け、サハリン残留邦人一時帰国支援事業を活用（降旗氏及び同行者のインナ氏）し、3月19日（土）に日本に帰国した。

現在、降旗氏の妹宅に身を寄せており、3月27日（日）までは新型コロナウイルス感染症に係る待機期間となっているが、その後は未定である。

会話はロシア語で、降旗氏の妹（旭川市居住）が通訳している。

3 その他

短期的には、降旗氏は心臓に持病があるため服薬が必要な状況にあることから、適切な医療の提供を受ける必要があること、一時的に妹宅に居住しているが、今後は住居の提供が必要になる可能性がある。

4 入居希望物件（入居時期は未定だが、3/28以後、即入居希望の可能性もあり。）

- ・ 1家4人同居可能
- ・ 市内緑が丘5条2丁目周辺1km圏内
- ・ 周辺平均家賃より低廉